

会 議 録

| | | | |
|--------------------|---|--------------|----|
| 会議名 (審議会等名) | 令和4年度 第2回相模原市総合計画審議会 | | |
| 事務局 (担当課) | 政策課 電話042-769-8203 (直通) | | |
| 開催日時 | 令和4年8月24日(水) 13時30分～15時30分 | | |
| 開催場所 | 相模原市役所会議室棟2階 第3会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 9人(別紙のとおり) | |
| | その他 | 0人(別紙のとおり) | |
| | 事務局 | 8人(政策課長、外7人) | |
| 公開の可否 | <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可 | 傍聴者数 | 1人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | | |
| 議 題 | (1) 総合計画進行管理2次評価(個別施策の審議) (2) その他 | | |

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

三橋政策課長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理2次評価（個別施策の審議）

(会長) 私がオンラインで出席していることから、本日は長野副会長に施策毎の審議の質疑応答を取り仕切っていただきたい。

- 施策1 子どもを生き育てやすい環境の整備
(事務局より施策1に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(副会長) 事務局の説明を踏まえて、記述の修正や追加の意見等あれば頂きたい。

(朝山委員) ヤングケアラーに関して、国から県に施策推進の働きかけをしており、市として進めることになるかと聞いている。

(村田委員) 子どもを育てやすい環境が相模原市は整備されていると思っているが、能動的にアクセスしなければならない状況であり、積極的なアピールや情報へのアクセスがしやすくなるような取組が必要であると考えている。

(隅河内委員) 成果指標⑤の実績値が減少している。施策の評価は指標だけでは捉えきれないことは理解しているが、すべての原因が新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）でよいのか。他の施策・事業ではコロナ禍においてもオンライン等の取組をしている。当該指標についても工夫や改善したことを示す必要があり、それを踏まえて分析、評価するのではないか。

また、実績値の伸び悩みはコロナの影響だけではなく、相談窓口が限定されているという本質的な原因も考えられる。オンライン相談等の代替手段の検討も必要になってくるのではないか。

(副会長) 施策の連携不足、事業効果の施策への反映がされていない等の課題があるのであろう。

(宮津委員) 成果指標③の実績値数が減少している。評価のとおりコロナの影響は認

めては良いと思う。しかし、そもそも子育て広場という意味は何なのかが分かりづらい、広場といっても様々な広場があり、定義により、数値も大きく変わるであろう。言葉のイメージが市民にわかるようにしていただきたい。

(副会長) まとめると、組織間での連携が切れていることが危惧される。また、取組の情報等が市民に届かないことが起きているのではないか。運営の仕方などに改善の余地があり、相談窓口か所であることのカバー方法の検討など、リソースの方法を考えるべきではないかという意見があった。

加えて、子育て施策の取組については、一定の水準は満たしているが、市民がアクセスできるような体制づくりが必要であること、組織間、施策間で連携できているという意見があった。

○ 施策4 家庭や地域における教育力の向上

(事務局より施策4に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(事務局) 事務局より補足させていただく。施策全体に関する意見として「家庭教育・子ども対象のものに限定されている。」という意見を頂いているが、生涯学習・社会学習については施策5に位置付けており、施策4は家庭教育に関する施策となっている。

(副会長) 施策4と5について、重複するものはあるか。

(事務局) いずれも生涯学習課が所管している施策であり、「地域の力が生かす」という意味では重複する部分はあるが、施策4は家庭教育に焦点を当てており、施策5は生涯学習、社会教育の振興という住み分けを行っている。

(村田委員) 施策4は子供に対する教育との認識である。新しい仕組みを用いてデジタルネイティブ向けの取組を講じていることは良いと思う。今後は、コロナの終了に向けた対応なども検討する必要がある。

(宮津委員) 施策4、5はテーマとして別々に検討していく必要があると考える。

(副会長) 横田委員の事務事業に関する意見は、施策1と4の連携性に関するものであり、施策全体に関する意見ではないか。

(横田委員) 家庭教育支援事業が充実することは、施策1への展開も期待出来るので

はないかと考えて意見させていただいた。

○ 施策6 地域福祉の推進

(事務局より施策6に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(隅河内委員) 包括的な相談支援に対して先駆的に取り組んでいることは評価したい。

しかしながら、民生委員やコミュニティソーシャルワーカー（以下「CSW」という。）が複合的な事例や狭間の問題で困っている人の相談に乗り、市に協力を求めても、担当部署が定まらず結局はうやむやになってしまうような状況もある。そのような課題を解決するために重層的支援体制整備が進められている。今後の対応としては、市内だけで検討するのではなく、「関係者意見を聞きながら現状課題を把握して、それを基に進めていく」といったことは示せないのか。

成果指標②の「地域住民による相談窓口」については、地区のボランティアセンター（以下「ボラセン」という。）の数が指標となっており、評価は「3地区増加することが出来た」となっている。しかしながら、成果を的確に判断するには、指標だけではなく取組全体をみて評価する必要がある。その意味ではボラセンがどのような相談窓口機能を持っているのか、相談窓口とボラセンの関係性、行政の専門相談とボラセンとの連携などについても触れてほしい。そのことが十分に説明できないのであれば、そもそも、成果指標②はアウトカムとして不十分なものとみられてしまう。振り返りを行い、もう一度分析する必要がある。

(出雲委員) 事務局に確認であるが、施策の評価に当たり、ボラセンやCSW、社会福祉協議会が行っているものは記さないという整理となっているのか。

(事務局) そのような整理はしていない。

(出雲委員) 委託事業も含めて、成果とみなせるということか。

(長野委員) 出雲委員の意見は、施策に対し大きなインパクトがある事業が見えなくなっているかもしれないという指摘も含まれると考える。

(宮津委員) 成果指標②は令和9年度の目標値を18としているがなぜ22ではないのか。

(隅河内委員) 市内22地区に自治連・地区社協があり、その中でボラセンが設置されているのが令和3年度時点で12カ所で、令和9年度までに18カ所を目指す

ということである。全地区に設置すべきではあるが、担い手がいないと設置は出来ない。

○施策10 健康づくりの推進

(事務局より施策10に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(須田委員) 会社は健康診断を受けさせる義務があるのだから、健康診断の案内時に実態を把握するなどした方が良いと思い意見した。

(宮津委員) ゲートキーパーの養成研修の実施とあるが、活動は無償・有償のどちらなのか

(隅河内委員) 一般市民の方をゲートキーパーとして位置づけることで自殺対策の周知の手段として活用していると認識している。

(宮津委員) 民生委員は有償、認知症サポーターは無償はであると承知している。今後ゲートキーパーの重要度は増してくるため、施策を立てて実施をした方がいいのではないかと

(副会長) 出雲委員の意見で健康づくり普及員の活動と健康増進の検証を意見しているが、本当にこういう効果があったのか、因果関係を確認してほしいということか。

(出雲委員) もともと高い指標に対して、少し高くなったというものに対しては、因果関係の分析が必要なのではないかと考える。これが意味ある変化か、誤差の範囲か、検証する必要がある。

(副会長) 意見をまとめると、実績値の落ち込みは、コロナ禍という状況を勘案すれば仕方ないが、次につなげていくことが大事である。個人の状況を詳細に把握することで、無駄の省略や事業の円滑化が進むのではないかと。コロナ禍によってニーズが高くなっていることにアプローチできるようなソフト施策が重要である。個人を把握するコミュニケーションツールの活用などがあった。

○施策27 商業の振興

(事務局より施策27に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(副会長) 出雲委員の事務事業に関する意見は質問ではないかと考えるが、事務局の

見解を伺う。

(事務局) 施策27に該当するものと考える。

(横田委員) 事務事業レベルであるが、一過的なコロナ対策を施策の中心に持つことに違和感を感じている。施策全体に関する意見としては、村田委員の全体意見と同意である。

(須田委員) 地域に根差すという視点では防災の取組を進めている商店街を評価してはどうか。防災に関するコミュニケーションによって地域活性化を行うことも良いのではないか。

(宮津委員) 中心市街地の魅力の向上は、橋本・相模原・相模大野の3か所で良いか。

(事務局) その通り。

(宮津委員) 近隣都市でショッピングセンターが出来ている中で、市民がどこに流出しているのか、市外の人がどのくらい本市に来ていただいているのか、把握すべきではないか。

また、今後の対応でコロナにより事業実施が難しいとしているが、難しいという標記はやめていただきたい。

(朝山委員) 商店街が地域に根差しているという点では、地域の子どもと商店街がつながるような対策が必要なのではないか。短期的な売り上げや助成金によるイベントは一時的なものでしかないので、長いスパンで総合計画を考え、相模原市をつかっていくということ考えていく必要があると考える。

(副会長) 意見をまとめると、各委員から、単に売り上げというものでなく、「防災」「子ども」といった視点で、地域に根差していく、別のベクトルでの商店街振興を進めることも有効ではないかとの意見があった。

○重点テーマ① 少子化対策

(事務局より重点テーマ①に対する委員からの意見の集約内容を説明)

(村田委員) 本市は、子どもは育てやすい環境にあるが、少子化対策として出生率・出生数を上げるとなると国の話とを感じる。

(副会長) 出雲委員の意見として、幼児教育という視点が重要とあるが、エッセンスとして含まれていないのではないかという指摘でよろしいか。

(出雲委員) 施策1と重点テーマ①の違いとして、施策1はルーティンに近いこれまでの施策について検証する、重点テーマは一步先を見据えて課題にフォーカスする必要があると考えた。その視点で体系として重点テーマとして考えたところ、幼児教育という視点がないように感じた。

(横田委員) 重点テーマ①は、施策6との関連が強いと考える。施策6の成果指標の下がり具合から地域コミュニティのコロナ疲れが見えており、福祉教育の効果が見えにくくなっているのではないかと思った。

(隅河内委員) 重点施策の意味、普通の施策となにが違うのか、政令市として一体的な施策推進が見込まれる中で、政令市としての強みを活かした示し方ができないか。また、単なる施策の再掲や寄せ集めでまとめるのではなく、ストーリー性を加えた見せ方や、これに沿ってアピールする指標があってもいいのではないか。例えば「母になるなら流山」のようなインパクトがある見せ方もわかりやすい。

(朝山委員) 相模原市の将来を担う世代の育成が必要であるならば少子化対策ではなく、市外へ流れない施策が必要ではないか。

郊外に住む流れがある中で、相模原に住みたいと思いつけたいと思う、相模原が選ばれる取組が必要で、中長期的な施策を考えてほしい。

明石市も子育て施策に力を入れているが、特色として、収入制限をしていないおらず、お金持ちの人も引っ越してくれるような施策を打ち出している。

(副会長) 委員からの意見として、住環境の整備に関する意見も寄せられており、今の意見はこれとオーバーラップしていると考える。

まとめると、体系としては幼児教育の要素を加える必要がある。また、今いる人にとっては満足度が高いが、これから来ていただく人に対してのどうアプローチするのか、福祉施策との連携や、住環境の視点が必要である。加えて、政令指定都市は、包括的に取組を推進できる強みがあるため、一体化したストーリーを打ち出してほしいという意見でよいか。

(2) その他

今後のスケジュール等について、事務局から説明を行った。

(牛山会長) 本日の議事は終了とする。

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

| | 氏 名 | 所 属 等 | 備 考 | 出欠席 |
|----|--------|-------------------------|-----|-----|
| 1 | 牛山 久仁彦 | 明治大学政治経済学部教授 地域行政学科長 | 会長 | 出 |
| 2 | 長野 基 | 東京都立大学都市環境学部都市政策科学科准教授 | 副会長 | 出 |
| 3 | 朝山 あつこ | 認定 NPO 法人キーパーソン 21 代表理事 | | 出 |
| 4 | 出雲 明子 | 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授 | | 出 |
| 5 | 隅河内 司 | 田園調布学園大学人間福祉学部教授 | | 出 |
| 6 | 横田 樹広 | 東京都市大学環境学部環境創生学科教授 | | 出 |
| 7 | 齋藤 祐子 | 公募委員 | | 欠 |
| 8 | 須田 理 | 公募委員 | | 出 |
| 9 | 宮津 敏信 | 公募委員 | | 出 |
| 10 | 村田 大輔 | 公募委員 | | 出 |